

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	2月12日(金) ～13日(土)	第9回水理講演会	土木学会	12号5 ページ参照
	2月13日(土)	河川災害の予知に関するセミナー	〃	12号5 〃
	5月28日(金) ～30日(日)	第51回通常総会および第20回年次学術講演会	福岡市	1号4 〃
	5月30日(日) ～6月1日(火)	見学会	九州地方	1号4 〃
北海道支部	2月22日(月)	年次研究発表会	札幌市	1号6 〃
	2月23日(火)	年次講習会	〃	1号6 〃
中部支部	1月30日(土)	土質化学セミナー	名古屋市	1号6 〃
	2月25日(木)	講習会・水理公式集の解説	〃	1号6 〃
	3月19日(金)	見学会	三重県伊賀上野地区	1号6 〃
関西支部	1月18日(月)	海外事情講演会	大阪市	12号7 〃
	1月18日(月)	会員懇親会	〃	12号8 〃
	1月23日(土)	学生のための映画会	京都大学	12号8 〃
	3月23日(火) ～24日(水)	土質改良工法講習会	大阪市	1号7 〃
西部支部	1月27日(水)	研究発表会および総会	福岡市	1号7 〃
そ の 他	2月15日(月) ～16日(火)	第3回原子力総合シンポジウム	神田・学士会館	1号8 〃
	2月23日(火)	日本工学会講演会	日本化学会	1号3 〃
	4月20日(火) ～22日(木)	第2回理工学における同位元素研究発表会	東京大学	1号8 〃
お知らせ	■日本学会会議第7期会員選挙について			1号3 〃
	■米国土木学会(ASCE)との客員サービス制度締結について			1号9 〃
	■昭和40年度科学研究費交付金等の公募について			1号10 〃
	■RILEMのシンポジウムについて			1号10 〃
	■第3回工学における電子計算機の応用に関する国際会議			1号10 〃
	■地震工学のための国際会議			1号10 〃
	■土木賞・吉田賞候補の締切(1月20日)			10号繰込 〃
■異形鉄筋に関する講演募集締切(2月15日)			1号3 〃	
出版案内	日本の土木技術——100年の発展のあゆみ			
	<p>最近のわが国の土木技術の隆盛には目をみはるものがありますが、これには明治以来、海外の技術を巧みにとり入れ、それを、日本人の創意と工夫によりわが国状に適するように開発した結果にほかありません。本書は土木学会創立50周年を記念してこのような土木技術の発展のあゆみを6項目にわけて、明治初期の技術より最近の各種の構造物を造り上げるまで発展した土木技術について記述した技術者必読の書であるので、ぜひご一読下さるようおすすめ致します。</p> <p>内 容： I 土木技術と国土の開発：わが国の近代化と土木技術・国土計画と地方計画 II 水の利用と水との戦い：水資源開発・洪水との戦い(河川/砂防/海岸) III 交通路の整備：交通政策・国有鉄道・民営鉄道・索道・鋼索鉄道・モノレール・道路・港湾・空港 IV 都市の建設：都市計画・都市交通(都市交通の発展/路面電車/地下鉄道)・衛生工学(はしがき/上水道/工業用水道の発展/下水道) V 材料の進歩と構造技術の進展：鋼構造(構造の合理化への努力/長大径間へのいどみ等7章)・コンクリート構造(はじめに/材料施工/鉄筋コンクリート/プレストレスト コンクリート) VI 基礎技術の進歩：測量・土質基礎・トンネル・ダム</p> <p>付：土木技術史を中心とした年表・索引</p> <p>体 裁：A5判 478 ページ 箱入上製 定 価：1200 円(〒150 円)ただし50周年にご寄付下さった個人会員は特別割引あり。</p>			

日本学術会議第7期会員選挙について

◀登録用カード締切 3月31日(水)▶

日本学術会議は、わが国の科学者の内外に対する代表機関で、その会員は選挙によって選ばれます。今年は3年ごとに行なわれる会員選挙の年であり、会員に選挙され、また会員を選挙するためには、日本学術会議の有権者名簿に登録されなければなりません。今年の選挙についての説明書が学術会議より参りましたので詳細は学会総務課または日本学術会議へお問合せ下さい。なお、選挙についてはつぎのことに留意して下さい。

1. 前回(昭和37年)の選挙有権者については、前回提出の登録用カードにより、昨年資格審査が行なわれました。これに関し、日本学術会議中央選挙管理会から特別の通知のなかった人は、有権者名簿に登録されますから、あらためて登録用カードを提出する必要はありません。
2. 前回の選挙の有権者以外の人および前回の選挙の有権者で日本学術会議中央選挙管理会から特別の通知のあった人で、今年選挙のために新たに有権者名簿に登録されることを希望する人は来る**3月31日**までに日本学術会議中央選挙管理会に登録用カードを提出しなければなりません。この登録用カードによる資格審査は4~5月に行なわれます。
3. 選挙期日(投票締切日)は本年11月25日です。
4. 有権者は氏名、住所、本籍、勤務機関および職名、勤務地のいずれかに異動があったときは、必ず日本学術会議中央選挙管理会(東京都台東区上野公園内)に「有権者異動届」を提出しなければなりません。これを怠ると有権者の権利を行使できないことがあります。

付記：なお、日本学術会議では「有権者名簿の副本」を実費で頒布しますのでご希望の方は**5月15日**までに学術会議へお申込み下さい。

異形鉄筋に関するシンポジウムの開催について

◀講演申込締切 2月15日▶

異形鉄筋に関するシンポジウムを下記により開催いたしますのでふるってご参加下さるようご案内いたします。なお、これに研究発表をご希望される方は、同じく下記申込要項によりご応募下さい。

期 日：1965年4月中旬

場 所：東京都内

参加費：無 料

◎講演申込要項

内 容：異形鉄筋の性質および使用方法に関するもの

申込期限：1965年**2月15日**(プログラム作製上期日をご厳守下さい。なお前号で1月末締切としましたが会誌の発行が遅くれているため2月15日まで延期します。)

申 込 先：東京都新宿区四谷1丁目 土木学会コンクリート委員会

申込要領：講演題目、氏名、所属機関名を記し、内容梗概(1000字以内)を付して申込むこと。

注：(1) 講演時間は1件15~20分程度を予定しております。

(2) 講演題目の選定、その他細目についてはコンクリート委員会にご一任下さい。

(3) プログラムが決定いたしました上は、講演者に対し、講演原稿(2000字程度)をご執筆、ご提出いただき、前刷として印刷し、当日実費配布する予定です。

(4) シンポジウム終了後、研究成果を土木学会で出版することを考えております。

第9回 水理講演会

◀2月12日(金)~13日(土)▶

1. 会 場：土木学会・土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目、電話 351-5138)

2. 課 題：(A) 開水路の不定流 (B) 水理構造物に関する流れの問題 (C) その他(自由)

3. プログラム：本誌第49巻第12号5ページ会告参照

河川災害の予知に関するセミナー

◀2月12日(土) 13.00~17.00▶

災害科学総合研究班河川専門分科会主催、土木学会水理委員会後援のもとに、河川災害の予知に関するセミナーを開催いたします。ふるってご参加下さい。

1. 会 場：土木学会・土木図書館講堂

2. 次 第：本誌第49巻第12号5ページ参照

第 51 回通常総会および第 20 回年次学術講演会 ◀ 5 月 28 日(金)~30 日(日) ▶

昭和 40 年度通常総会(第 51 回)および第 20 回年次学術講演会はずきの日程により福岡市で開催いたします。年次学術講演会の実施要領はほぼ前回と同様であります。講演申込みおよび原稿提出締切期日が前回より早くっており、講演原稿の提出先が西部支部となっておりますので、ご注意下さい。

総会、懇親会、見学会、講演概要などの申し込み方法は追ってプログラムでお知らせいたします。年次学術講演会で講演希望の方はずきの要領をご覧の上、1965 年 1 月 15 日(金)までに学術講演会係(福岡市箱崎町九州大学工学部土木工学教室内)直接お申込み下さい。

項 目	月 日	時 刻	場 所
通 常 総 会 総 会 講 演 会 年 次 学 術 講 演 会	1965 年 5 月 28 日(金)	14.00—17.00	明 治 生 命 ホール
	5 月 29 日(土)	9.00—12.00	福 岡 市 民 会 館
	5 月 29 日(土)	13.00—17.00	九 大 工 学 部 教 室
	5 月 30 日(日)	9.00—17.00	"
懇 親 会	5 月 29 日(土)	18.00—19.30	天 神 ビ ル ホール
見 学 会	A 関門北九州コース	5 月 31 日 発	下 関 解 散 17.00
	B 西九州コース	"	雲 仙 泊 長 崎 " 14.30
	C 中九州コース	"	内 牧 泊 別 府 " 17.00
	D 南九州コース	5 月 30 日 夜 行	霧 島 泊 鹿 児 島 " 12.30

土木学会第 20 回年次学術講演会実施要領について

I. 学術講演会実施要領

- 講演応募の要領は期日および宛先の点を除いてほぼ例年のとおりとする。
- 研究発表には各部門ともできるかぎり一般報告の方式を採用し、やむを得ない場合にかぎり著者自らによる個人発表の方式を採用する。
- 一般報告の方式では同じ種別の論文数編ずつを、学会の委嘱した一般報告者が総括して報告し、その後に質疑討論を行なう。質疑討論の応答には各著者が自らこれに当る。場合により著者に補足説明をみとめる。
- 一般報告に付する論文は学会で決定し、プログラムに登載する。
- 講演概要の記述にあたっては、一般報告者がその概要にもとづいて報告することを予想して、必ず、それぞれの研究の考え方と結論とをわかりやすく書くこと。
- 個人発表の方式では、講演時間(交代時間を含む)を 10 分とし、数編の講演後にまとめて質疑討論の時間を設ける。
- 講演概要集はあらかじめ参加者に送付する。

II. 学術講演会講演申込要領

- 講演申込方法：講演希望者は申込カード(3枚複写綴、第 1、第 2 枚目は学術講演係用、第 3 枚目は講演者の控え)に希望部門、題目、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名(連名のときは講演者に○印をつける)、卒業学校名および年次、連絡先を明記の上、必ず 200 字程度の内容梗概を付して、1 月 15 日(金)までに学術講演会係(福岡市箱崎町九州大学工学部土木工学教室内)へ、直接申込むこと。
- 申込カードは各支部に準備しているから、各自所属支部へ請求すること。
- 講演内容：講演は原則として未発表のもので 1 人 1 題に限る。
- 講演部門：ずきの 4 部門に分ける。なお、都合により希望部門を講演者の了承を得た上で変更することがある。

第 1 部門：応用力学、構造力学、橋梁等

第 2 部門：水理学、水文学、河川、港湾、海岸、発電水力、衛生工学等

第 3 部門：土質力学、基礎工学、土木機械、施工等

第 4 部門：鉄道、道路、コンクリートおよび鉄筋コンクリート、土木材料、都市計画、空港、測量等

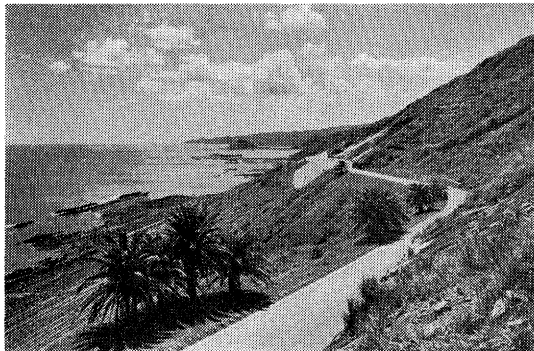
- 5) 原稿提出要領：講演申込者はつぎの要領で講演概要の原稿を提出すること。
- (a) 講演概要は講演者の原稿をそのまま縮写し、オフセット印刷とするから、所定の用紙を使用すること。
 - (b) 用紙は執筆要領とともに申込者に所属支部から渡すから支部へ請求すること。
 - (c) 原稿は **2月28日(日)**までに 学術講演会係(九州大学工学部土木教室内)に 必着するよう各自直接送ること。
 - (d) 原稿の長さは1題目につき2ページ(図表、写真とも)を原則とする。特に超過する場合(超過は2ページまでに限る)は1ページにつき2000円の製版料を申受ける。
 - (e) 講演概要集：講演者(○印)にはその部門の概要集を無料で1部送付するが、一般は有料とする。別刷は講演者(○印)には20部を無料、20部を越える分は実費でわかるから、申込みカードに超過分の希望部数を記入すること。

III. 質疑討論の申込要領

- 1) 質疑討論を行なうことを希望するものは 所定の期日(**5月10日**)までに、原則として指定の質問券(3枚複写綴、第1,第2枚目は学術講演会係用、第3枚目は質問者の控え)によって学術講演会係(福岡市箱崎町九州大学工学部土木教室内)に申込みこと。
- 2) 質問券は概要集とともに参加者に送付する。
- 3) 申込みされた質疑討論の内容はあらかじめ各著者に回付する。
- 4) 時間に余裕がある場合にかぎり、期限以後到着の質問カードおよび講演会場での質疑討論の申込みを受けける。

備 考：

- (a) 講演題目および著者名等の申込締切期日
(福岡市箱崎町九州大学工学部土木教室内学術講演会係宛)
1965年**1月15日(金)**(期限厳守)
- (b) 講演概要の提出締切期日(同上 学術講演会係宛)
1965年**2月28日(日)**(期限厳守)
- (c) 講演概要集の購入申込締切期日(同上 学術講演会係宛)
1965年**4月15日(木)**(期限厳守)(事前発送の場合)
- (d) 質疑討論の申込締切期日(同上 学術講演会係宛)
1965年**5月10日(月)**
- (e) 講演会の実施日時：1965年**5月29日(土)** 13時~17時
5月30日(日) 9時~17時
実施場所：九州大学
- (f) プログラムの発送期日：1965年3月下旬の見込



日 南 海 岸

日南海岸は1955年に国定公園に指定され、面積は486.46km²あり、宮崎県の南東岸、宮崎市から鶴戸崎をへて都井岬に至る約90kmの海岸線と、鹿児島県の志布湾岸約16kmとからなる。海流の影響で気候は温暖であり南国的な風景に富んでいる。写真は掘切岬付近で南国特有の海と空の色は見事である。

北海道支部行事案内 (札幌市平岸 北海道開発局土木試験所内・電 札幌 83—4161)

(1) 支部年次研究発表会 ◀ 2月22日(月) 9.00~16.30 ▶

1. 場 所: 札幌市民会館
2. 発表数: 25編を予定; 以上の結果を技術資料第21号として印刷して2月上旬に刊行する。

(2) 支部年次講習会 ◀ 2月23日(火) 9.00~16.30 ▶

1. 場 所: 札幌市民会館
2. 講義科目: (予定)
 - ① 交通問題/北海道大学 小川博三 ■ ② 海外問題/室蘭工大 能町純雄 ■ ③ 航空写真測量/国際航業KK 武田裕幸

中部支部行事案内 (名古屋市中区南外堀町6の1・名古屋市土木局道路建設課内・電 名古屋 94—5511)

(1) 土質化学セミナー ◀ 1月30日(土) 9.30~17.00 ▶

1. 場 所: 名古屋市中区御幸本町 愛知県産業貿易館集會室 (電 名古屋 23—6351)
2. 題目・講師

9.30~10.40	濃尾平野南部地盤構成と地下水について	名古屋大学	松 沢 勲
10.40~11.40	土壌処理における機械力と化学力	東京大学生産技術研究所	野 崎 弘
昼 食 ・ 休 憩			
12.40~13.40	土質安定工法について	京都大学	松 尾 新一郎
13.40~14.40	粘土表面の性質と構造	早稲田大学	加 藤 忠 蔵
14.50~15.50	泥水工法について	KK大林組	福 住 隆 二
15.50~16.50	薬液注入一主としてアロン A-40 シリーズの現場実験の方法	昭和地下工業KK	岡 部 博
3. 共 催: 電気化学協会中部支部土質委員会・日本材料学会土質安定材料委員会・日本材料学会中部学会
4. 協 賛: 土木学会中部支部・土質工学会・窯業学会・日本化学学会東海支部・東海化学会

(2) 講習会・水理公式集の解説 ◀ 2月25日(木) ▶

1. 場 所: 名古屋市中区武平町・愛知県文化会館第一集會室 (市電・地下鉄ともに栄町下車 100m 公園道路東側)
2. 題目・講師:

9.45~10.00	支部長あいさつ	土木学会中部支部長	井 上 幸太郎
10.00~12.00	水理公式集の例題による解説	京都大学	岩 佐 義 朗・京都大学 合 田 健
13.00~16.30	水理公式集の例題による解説	名古屋工業大学	細 井 正 延・名古屋大学 足 立 昭 平
3. 教 材: 水理公式集の解説と例題
4. 受 講 費: 300円 (会員および非会員共)
5. 参加予定人員: 約 150名
6. 申込方法: 1965年2月15日までに土木学会中部支部へ氏名・勤務先を適宜の用紙に記入して会費をそえてお申込み下さい。申込期日までに会費の間に合わない場合は当日会場でも受け付けます。
7. 共 催: 土木学会関西支部

(3) 見学会 ◀ 3月19日(金) 9.30 集合 ▶

1. 見学場所: 名阪国道工事現場・三重県伊賀上野地区
2. 集合場所: テレビ塔
3. 参加人員: 100名
4. 参加費: 無 料
5. 申込方法: 3月15日(月)までに最寄の幹事または中部支部までお申し込み下さい。

関西支部住所変更

関西支部は 12 月 12 日より下記のとおり事務局所在地が変わりましたのでお知らせします。

大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地

社団法人 土木学会関西支部

電話 大阪 981—2510 番 振替口座 大阪 82599 番

関西支部行事案内

(1) 土質改良工法講習会

◀ 3 月 23 日(火)~24 日(水) ▶

共催：日本材料学会土質安定材料委員会・土木学会関西支部 ■協賛：土質工学会関西支部・日本建築学会近畿支部

1. 場 所：大阪府職員会館 2 階大講堂 大阪市東区大手前之町 電・大阪 (941) 0351 (大阪府庁本館西裏)

2. 題目と講師：

第 1 日 3 月 23 日(火)

9.10~10.30	① 土質改良工法概説	京都大学工学部教授 工博	松尾新一郎
10.40~12.00	② 深層排水工法の設計と施工	大阪市立大学工学部助教授 工博	三笠正人
13.00~14.20	③ 転圧と振動締固め工法	神戸大学工学部教授 工博	谷本喜一
14.30~15.10	④ 泥水工法とその施工	KK大林組桜橋工事事務所主任	安盛寿一
15.10~16.30	⑤ 高含水比粘性土土工の諸問題	東京大学生産技術研究所助教授	三木五三郎

第 2 日 3 月 24 日(水)

10.00~11.20	⑥ 表層安定処理工法および材料概観	九州大学工学部助教授 工博	山内豊聡
11.20~11.50	⑦ 防塵処理工法とその施工	大阪市立大学工学部助手	鈴木健夫
13.00~13.40	⑧ 法面防護工法とその施工	日本道路公団高速道路試験所調査役 農博	新田伸三
13.40~14.40	⑨ 電気浸透工法の理論と設計	大阪市立大学工学部助教授 工博	三瀬 貞
14.50~15.50	⑩ 注入工法の理論と設計	国鉄鉄道技術研究所主任研究員 工博	樋口芳朗
15.50~16.30	⑪ 注入材料及と施工上の問題点	三信建設工業KK代表取締役	市瀬良男

3. 定 員：400 名

4. 参 加 費：共催・協賛団体会員 2 000 円 (テキスト代をふくむ)、ただし講習会当日は 3 000 円となりますので申込期限内に前納して下さい。 非会員 3 000 円 (テキスト代ふくむ)

5. 申 込 期 限：1965 年 3 月 8 日(月)

6. 申 込 方 法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および所属団体名を明記して参加費を添えて 3 月 8 日(月)までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。ただし申込期限内でも定員に達した時は先着順で決めますから早く申し込んで下さい。参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします

- (2) 海外事情講演会 } 1965 年 1 月 18 日(月) 好文倶楽部 } 詳細は 12 月号 7 ページ参照
 (3) 会員懇親会 }
 (4) 学生のための映画会 (第 8 回) 1965 年 1 月 23 日(土) 京都大学土木総合館 }

西部支部行事案内 (福岡市渡辺通り 2 丁目 九州電力KK土木部内 電・福岡 76—3031)

西部支部研究発表会および総会 (昭和 39 年度)

◀ 1 月 27 日(水) 9.00~17.00 ▶

1. 開催場所：福岡市中島町 明治生命ビル

2. 参加料：200 円 (論文集代として当日支払いのこと)

3. 総 会：研究発表会終了後開催いたします。本会誌発表をもって総会案内とします。会員多数ご出席下さい。

第3回 原子力総合シンポジウム

◀ 2月15日(月)～16日(火) ▶

1. 開催趣旨：原子力関連学協会の共催により、原子力研究を軸として専門分野を異にする研究者・技術者の間の知識の交流および普及をはかる。

2. 場 所：東京・神田・学士会館（大集会室・北大食堂）

3. 内 容：

第1日 2月15日(月)

A 会 場(大集会室)

開 会 挨拶 9.30～ 日本原子力学会会長 瀬 藤 象 二
 経 過 報 告 運営委員長 内 藤 正
 講 演 1 9.45～10.35 動力炉開発の現状と日本の立場 座 長 瀬 藤 象 二・原子力委員 武 田 栄 一
 講 演 2 10.35～11.25 安全性関係 電 試 山 田 太 三 郎・座 長 内 藤 正
 講 演 3 11.25～12.15 原子炉の熱利用(海水脱塩など) 座 長 内 藤 正・東 大 大 島 恵 一

昼 休 12.15～13.15

討 論 会 I 13.15～16.00 日本の原子力発電開発における燃料サイクル上の諸問題 座 長 荒 川 康 夫
 (1) ウラン資源の経済的再評価(15分) / 原燃 神山貞二 ■ (2) 濃縮ウラン入手の見通し(15分) / 原電 浅田忠一 ■ (3) 核燃料の
 国産化(15分) / 三菱原子力 横須賀正寿 ■ (4) プルトニウムクレジット(15分) / 電力中研 高橋 実 ■ (5) 核燃料としてのプ
 ルトニウム(15分) / 原燃 中村康治 ■ (6) 核燃料に伴う政府の施策(15分) / 原子力局 萩野谷 徹 ■ (7) 核燃料サイクルコスト
 (15分) / 東電 脇坂清一

B 会 場(北大食堂)

総合講演 1 10.00～12.00 原子炉圧力容器の照射脆化に関する諸問題 座 長 川 崎 正 之
 (1) 海外およびわが国における研究の情勢(30分) / 早大 長谷川正義 ■ (2) 脆性破壊試験の情勢(30分) / 東大 安藤良夫 ■ (3)
 原研における照射脆性試験(30分) / 原研 藤村理人

昼 休 12.00～13.00

討 論 会 II 13.00～16.00 原子炉事故後冷却装置に関する討論会 座 長 内 田 秀 雄
 (1) 冷却材喪失時の炉内変化(20分) / 電試 竹越 尹 ■ (2) 冷却材の流出(20分) / 東大 成合英樹 ■ (3) コアスプレー(20分) /
 日立 森島国男 ■ (4) 圧力抑制装置(20分) / NAIG 市野市郎 ■ (5) コンテナ・スプレー(20分) 三菱原子力 川口 修

第2日 2月16日(火)

A 会 場(大集会室)

総合講演 2 9.30～12.00 放射性廃棄物処理・処分の諸問題 座 長 左 合 正 雄
 (1) 放射性廃棄物の処分(40分) / 東大 桧山義夫 ■ (2) ① 廃棄物処理の問題点 2, 3(30分) / 原研 石原健彦 / ② 廃棄物処理と経
 済性(30分) / 原研 杉本仙市 ■ (3) 海洋投棄用容器の研究(40分) / 都立大 村田二郎・東大 国分正胤

昼 休 12.00～13.00 ◀(土木学会原子力関係コンクリート小委員会)▶

討 論 会 III 13.00～16.00 核燃料再処理の諸問題 座 長 高 島 洋 一・討論司会 向 坊 隆
 (1) 再処理に関する放射線防護の問題(30分) / 放医研 鈴木間左支 ■ (2) 再処理施設の技術的問題(30分) / 原研 青地哲男 ■ (3) /
 再処理工場計画(30分) / 原燃 坂本 猛

B 会 場(北大食堂)

総合講演 3 9.30～12.00 冷却材別にみた原子炉型の工学的比較論 座 長 三 木 良 平
 (1) Na 炉の材料工学(30分) / 原研 古川和男 ■ (2) Na 炉の熱工学(30分) / 東北大 小林清志 ■ (3) ガス、水炉の材料工学
 (30分) / 東大 三島良績 ■ (4) ガスの熱工学(30分) 東工大 青木成文

昼 休 12.00～13.00

総合講演 4 13.00～14.30 動力炉開発のための燃料材料に関する諸問題 座 長 佐 野 忠 雄
 (1) 核燃料と金属材料(50分) / 原研 川崎正之 ■ (2) 原子炉用セラミック材料(40分) / 東工大 鈴木弘茂

総合講演 5 14.30～16.00 熱除去実験ループによる研究開発の現状 座 長 青 木 成 文
 (1) 熱ループによる研究の現状とその必要性(45分) / 東大 橋 藤雄 ■ (2) 船用炉熱ループの特殊性とその研究開発(45分) / 船研
 一色尚次

第2回 理工学における同位元素研究発表会

◀ 4月20日(火)～22日(木) ▶

このたび、関係諸学協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催することになりました。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものでありますのでふるってご参加下さい。

1. 会 場：東京大学

2. 共同主催者：関係 43 学協会

3. そ の 他：論文集申込み締切は 1 月 30 日(土)です。詳細は学会誌 12 月号 6 ページをご覧ください。

米国土木学会 (ASCE) との客員サービス制度締結について

先般、米国土木学会 (ASCE) より International Relationship in Engineering の一環として、ASCE と日本の土木学会の客員サービス交換を行ないたい旨の提案がありました。ASCE ではすでに英国、アイルランド、フランス、ノルウェー、スイス、ポルトガルなどの関係学会とこの契約を結んでいるとのことです。当学会では理事会および海外連絡委員会の承認を経て、この提案に応じることとし契約を完了致しました。その内容は末尾の英文メモランダム原文に見られるとおりですが、その要点はつぎのようなものであります。

この制度は、本国の土木学会に所属する会員が相手国に滞在する間、相手国の土木学会の客員として待遇され、たとえば下記の恩典を受けることができる。

- 1) 相手国内における職業上の接触、訪問などを助けるため、受入学会の客員としての身分証明書を発行する。
- 2) 受入学会の本部、支部における特別な外国人技術者客員連絡リストに登録される。
- 3) 受入学会はすべての技術上あるいは社交上の会合の案内をし、学会員並の会費で参加する特権を与える。
- 4) 受入学会の定期刊行物、ニュースレターの予約購読者になれる。
- 5) 受入学会の出版物の購入または予約が、その学会員並の割引価格でなされる。

客員になるための手続きとしてはまず本人の属する自国の学会専務理事より適当な紹介状を発行してもらい、これを相手国の学会事務局に直接あるいは書面で示し、年額 10 ドルの会費を納入すればよい。有効期間は 3 年以内の契約となっている。

本国の土木学会会員ならば無条件にというわけではありませぬので、この制度を利用することをご希望の方は一応学会当局にご相談下さい。会員各位におかれては積極的にこれを御利用下さることをおすすめ致します。また、米国土木学会より客員の資格で来日された方にはなにぶんの御便宜をおはかり下さるようお願い致します。

MEMORANDUM OF AGREEMENT

ON

EXCHANGE OF MEMBERSHIP GUEST PRIVILEGES

1. This memorandum records the mutual agreement of the Japan Society of Civil Engineers and the American Society of Civil Engineers to implement the objectives and philosophy of the statement entitled "International Relationships in Engineering", which is attached and made a part hereof. The agreement is based upon the premise that an engineer practicing outside his own country is best served professionally by the national engineering society in the country in which he is engaged, to the end that he becomes a welcome addition to the professional community of that country.

2. In furtherance of this aim it is agreed that a member in good standing of either Society, who is living or working in the country served by the other Society, and who is provided with an appropriate letter of introduction by the Secretary of his own Society, may, if he desires, subscribe to certain guest privileges to be extended by the other, or Host Society. The guest privileges to be made available by the Host Society shall include the following :

- (a) A wallet card identifying the member as a guest of the Host Society for assistance in professional contact, visits, etc.
- (b) Registration in special Foreign Engineer Guest mailing lists to be maintained by the Host Society and any of its local sections in which the guest member might locate.
- (c) Regular mailings of notices of all technical and social meetings of the Host Society, national or local, with the privilege to attend and participate at regular membership registration fees.
- (d) A subscription to the periodical magazine or newsletter of the Host Society.
- (e) Privilege to purchase or subscribe to any publications of the Host Society at the same discounted rates extended to its own members.

3. Upon presentation of his letter of introduction to the Secretary of the Host Society, either in person or in writing, the Foreign Engineer Guest will be extended the privileges above listed upon payment to the Host Society of an annual subscription fee in the amount of \$ 10 (U.S.)

Such subscription fee shall be payable annually in advance for the term of guest enrollment.

4. Foreign Engineer Guest enrollment under this agreement will be extended to any member for a period of not less than one year or more than 3 years. Such enrollment shall be suspended immediately (a) when the Host Society is notified that a Guest Engineer is no longer a member in good standing of his own Society, or (b) when the Foreign Engineer leaves the country of the Host Society.

5. This agreement may be terminated by either Society upon thirty days written notice to the other Society. In the event of termination, all current Guest Engineer enrollments will be continued to expiration.

Signed : Secretary, American Society of Civil Engineers

(Date)

Secretary,

昭和 40 年度科学研究費交付金等の公募について

標記の件に関して文部省より連絡がありましたのでお知らせします。なお、公募についての詳細は下記へご連絡下さい。本公募に応募するための計画調書の提出期間については昭和 39 年 11 月 13 日文部省告示第 158 号で告示されておりますので念のためお知らせします。

科学研究費については：文部省大学学術局研究助成課（電 581—4211 内線 380・381）

研究成果刊行費については：文部省大学学術局学術情報主任官室（電 581—4211 内線 391）

RILEM のシンポジウムについて

1965 年 5 月イタリアで開催予定の「海水の作用をうけたコンクリートの挙動」と題するシンポジウムについてのプログラムが来ましたので詳細は RILEM 日本代表・建設省建築研究所長 平賀謙一氏または土木学会総務課へご連絡下さい。

第 3 回工学における電子計算機の応用に関する国際会議

—3rd International Congress on the Application of Mathematics in Engineering—

標記の国際会議が本年 6 月 27 日から 7 月 4 日の 1 週間東ドイツワイマールで開催されます。本会議のプログラムはつぎのとおりですが、詳細については下記へお問合せ下さい。

主題“建築における電子計算機の応用”

- 分科 1. 建築力学における数学的手順 Mathematical Procedure in Building Statics.
2. 経済および工法上の数学的手順 : Mathematical Procedure in Economics and Technology.
3. 応用数学 : Applied Mathematics.

問合先：名古屋市千種区不老町 名古屋大学土木工学科 成岡昌夫教授（電 名古屋 78—2111）

または東京都中野区西町 5 番地・日本ホルスタイン会館内・KK構造計画研究所 服部 正氏（電 382—6761）

地震工学のための国際会議——土木工学における振動に関するシンポジウム——

1. 期 日：1965 年 4 月 5 日～7 日
2. 場 所：London の Imperial College of Science and Technology
3. 内 容：下記の題目で論文の招待が来ております。
(a) the nature of dynamic loading and origins of vibration, (b) the transmission of vibration,
(c) the dynamic behaviour of soils and foundations, (d) current practice in structural design,
(e) instrumentation, (f) current practice in structural isolation.

くわしくは土木学会編集課 (351) 5130 にご照会下さい。